

会員各位

サーバーの発煙、火災の要因について

一般社団法人 日本宅配水&サーバー協会
サーバー委員会 座長 安齋 太郎

拝啓、平素より当協会の活動にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

昨今、ウォーターサーバー含め、家電製品全般での発煙、火災に関する事故が増えている状況です。ウォーターサーバーの発煙、火災対策は、他の家電製品と同じですが、他家電製品に比べ、本体への通電時間が比較的長い為、より意識をして発煙、火災対策に取り組まなければなりません。発煙、火災になる要因を再度認識して頂き、2017年3月7日付でJDSAのホームページ(TOPICS)に掲載された「サーバーの発煙、火災事故対策について」を参考に各会員様で事故対策を講じていただきますよう、お願い申し上げます。

敬具

【発煙・火災事故の主な要因】

《グロー現象》

- 電源プラグの差込み部がゆるい場合や配線等の接続部がゆるむと接触抵抗が増加することにより発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。
- スイッチ（バイメタルスイッチ含む）やリレーなど、ON/OFFを繰り返す電気部品は、の耐用回数を超えると接点表面に腐食などで接触抵抗が増え発熱、発煙、発火に至ることがある。
- 配線を接続するファストン端子の緩み、表面に腐食など異常がある場合、接触抵抗が増え発熱、発煙、発火に至ることがある。

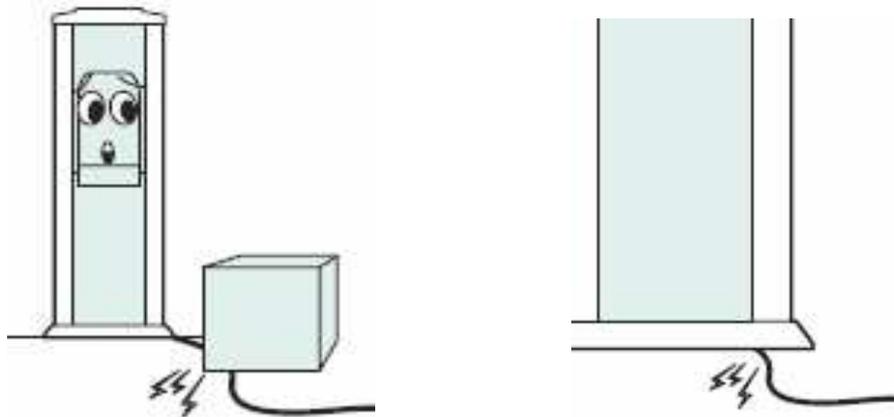
《トラッキング現象》

- 電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、隙間に埃が溜まり、その埃が空気中の湿気を吸収することで電気が流れ、発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。



《ショート（短絡）》

- 電源コードは、2本の電線で出来ています。この2本の電線どうしが直接接触すると瞬間的に大きな電流が流れ火花が発生し火災に至ることがある。
- 電源コードが扉に挟まれたり、物の下敷きになると配線の何割かが切断（半断線）状態になることで発熱したりショートすることで発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。



- 電気コードを束ねることでコード表面の熱がうまく放熱できず発熱することで、配線の被覆が溶けだしショートしたり、配線の折り曲げにより配線の何割かが切断（半断線）状態になることで発熱することで、発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。

《過電流現象》

- コンセントや延長コード、電源タップには、定格容量（許容電流）が決まっています。たこ足配線などにより、一度に多くの電気機器を使用し続けると、定格容量を超えた過電流が流れ、発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。
- コンセントや延長コードの定格容量を超えての使用は、過電流が流れ、発熱、発煙、発火し火災に至ることがある。



一般社団法人

日本宅配水&サーバー協会

Japan Delivery Water & Server Association